

菱 川 明 栄 (准教授) (2003 年 4 月 1 日 ~ 2010 年 3 月 31 日)^{*}

A-1) 専門領域：光物理化学，強レーザー場科学

A-2) 研究課題：

- a) 強レーザー場中原子分子過程の解明と制御
- b) クーロン爆発イメージングによる超高速反応追跡
- c) 高次高調波による極短パルス軟 X 線の発生と応用

A-3) 研究活動の概略と主な成果

- a) 単一分子から生成したすべてのイオンおよび電子の多重コインシデンス法の開発を行い，近赤外超短パルス強レーザー場における孤立原子および分子の多重電離過程における電子相関および核ダイナミクスを明らかにした。また，電子励起状態からの分子の解離性イオン化過程の観測に成功した。さらに理研播磨研究所における SCSS 試験加速器 FEL を用い，EUV 超短パルスレーザー場における非線形多重イオン化過程経路を「光のゆらぎ」を利用した新しい光電子分光計測によって明らかにした。
- b) 分散補償ミラーと中空ファイバーからなるパルス圧縮器によってサブ 10 フェムト秒領域のレーザーパルスの発生を行った。これを集光して得た強レーザー場における多重クーロン爆発を利用することによって超高速分子反応過程，特に分子内の水素原子の動きがを実時間で可視化すること成功した。
- c) 希ガス非線形媒質 (Ne または Ar) を用いて発生させた高調波を，希ガス圧，セル長，集光強度を制御変数として最適化を行い，その特性を評価をした。また，特定次数の高調波を取り出すための誘電多層膜ミラーあるいは金属薄膜フィルターと ポンプ・プローブ時間遅延部を備えたビームラインを構築した。これによって得られた単一次数 (59 次，27 次，10 次) 高調波を用い，価電子あるいは内殻光電子およびオージェ電子の観測および核ダイナミクスの追跡に成功した。

B-1) 学術論文

Y. HIKOSAKA, M. FUSHITANI, A. MATSUDA, C.-M. TSENG, A. HISHIKAWA, E. SHIGEMASA, M. NAGASONO, K. TONO, T. TOGASHI, H. OHASHI, H. KIMURA, Y. SENBA, M. YABASHI and T. ISHIKAWA, "Multiphoton Double Ionization of Ar in Intense Extreme Ultraviolet Laser Fields Studied by Shot-by-Shot Photoelectron Spectroscopy," *Phys. Rev. Lett.* **105**, 133001 (4 pages) (2010).

B-3) 総説，著書

彦坂泰正，伏谷瑞穂，菱川明栄，「EUV SASE-FEL を用いた原子の多光子多重イオン化過程の研究」*放射光* **23**, 291–294 (2010).

B-4) 招待講演

A. HISHIKAWA, “Visualizing ultrafast chemical reactions by few-cycle intense laser pulse,” The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2010), Honolulu (U.S.A.), December 2010.

A. HISHIKAWA, “Visualizing ultrafast chemical reactions by intense ultrashort laser pulses,” The 7th International conference on Vacuum Ultraviolet and X-ray Physics (VUVX 2010), Vancouver (Canada), July 2010.

A. HISHIKAWA, “Visualizing ultrafast chemical reaction by few-cycle intense laser pulses,” The 4th Yamada Symposium on Advanced Photons and Science Evolution 2010 (APSE2010), Osaka (Japan), June 2010.

A. HISHIKAWA, “Visualizing ultrafast chemical reaction by few-cycle intense laser pulses,” The 9th Joint Seminar University of Münster–Nagoya University, Nagoya (Japan), May 2010.

A. HISHIKAWA, “Molecular processes in few-cycle intense laser fields,” One Day Symposium on Molecules in Intense Laser Field and Related Phenomena, Tokyo (Japan), March 2010.

A. HISHIKAWA, “Visualizing chemical reactions by intense ultrashort laser pulses,” The 6th Asian Conference on Ultrafast Phenomena (ACUP), Taipei (Taiwan), January 2010.

菱川明栄, 「クーロン爆発イメージングによる超高速化学反応の追跡」第一回統合物質シンポジウム「統合物質創製化学の現状と展望」, 京都大学, 宇治, 2010年12月.

菱川明栄, 「数サイクル強レーザー場における分子過程」, 「実在系分子理論」取りまとめシンポジウム, 岡崎コンファレンスセンター, 岡崎, 2010年7月.

B-6) 受賞, 表彰

菱川明栄, 原子衝突研究協会若手奨励賞 (2000).

菱川明栄, 日本分光学会賞論文賞 (2001).

菱川明栄, 平成19年度分子科学奨励森野基金 (2007).

B-7) 学会および社会的活動

学協会役員等

日本分光学会企画委員 (1999–2003).

原子衝突研究協会企画委員 (2001–2003, 2006–2007).

分子科学研究会委員 (2002–2006).

日本分光学会中部支部幹事 (2003–2008).

強光子場科学懇談会企画委員 (2004–2007).

日本化学会東海支部代議員 (2007–2008).

強光子場科学懇談会幹事 (2007–).

学会の組織委員等

分子構造総合討論会プログラム委員 (2000).

分子構造総合討論会シンポジウム「レーザー場による分子過程コントロール」主催者 (2000).

日本分光学会装置部会・理研合同シンポジウム「強光子場の科学とその応用」主催者 (2000).

日本分光学会装置部会・理研合同シンポジウム「超短パルス電子線・X線技術の現状と新展開」主催者 (2002).

第8回東アジア化学反応ワークショップ主催者 (2004).

第22回化学反応討論会実行委員 (2005–2006).

原子衝突研究協会第31回研究会実行委員 (2005–2006).

レーザー学会第28回年次大会プログラム委員 (2007–2008).

Asia Pacific Laser Symposium (APLS)2008 プログラム委員 (2007–2008).

東京工業大学応用セラミックス研究所 & 物質材料研究機構ナノ計測センター合同シンポジウム「凝縮系の超高速現象とコヒーレント制御」主催者 (2008).

分子科学討論会2009実行委員 (2008–2009).

レーザー学会第29回年次大会プログラム委員 (2008–2009).

文部科学省, 学術振興会, 大学共同利用機関等の委員等

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員 (2009–2010).

B-10) 競争的資金

松尾学術振興財団学術助成, 「強光子場中分子の電子相関ダイナミクス」菱川明栄 (1999年).

科研費基盤研究(C), 「多原子分子ドレスト状態の高分解能干渉ドップラー分光」菱川明栄 (1999年).

科研費基盤研究(B)(2), 「同時計数運動量測定による強光子場中多原子分子ドレスト状態の解明」菱川明栄 (2000年–2001年).

科研費若手研究(A), 「電子 - イオンコインシデンス運動量計測による強光子場中分子ダイナミクス」菱川明栄 (2002年–2004年).

科研費特定領域研究(公募研究)「分子ドレスト状態における核波束実時間追跡: コインシデンス画像法によるアプローチ」菱川明栄 (2004年–2005年).

科学技術振興機構さきがけ研究, 「光電子ホログラフィーによるレーザー場反応追跡」菱川明栄 (2005年–2009年).

C) 研究活動の課題と展望

非共鳴強レーザー場中分子における電子励起過程を明らかにするため, 解離性イオン化過程に着目し, 電子 - イオン多重相関計測からその理解を進める。クーロン爆発イメージングを利用した光誘起反応過程の実時間追跡および, 強レーザー場における分子過程の「その場」観測を行う。レーザー高次高調波が有する高い時間分解能と軟X線領域の高い光子エネルギーを利用した実時間反応追跡のための新規手法の開発を行い, 超高速核ダイナミクスの追跡だけにとどまらず, 反応過程を決定づける電子の運動を明らかにしたい。

*) 2010年4月1日名古屋大学大学院理学研究科教授, 分子科学研究所教授兼任